



2016年特別展 モササウルス展（～11/6）紹介



白亜紀後期に生息していた海の王者モササウルスを、穂別産標本、国内の代表的な標本、国外の初公開の標本によって詳しく紹介しています。

日本からはモササウルス類が全39個体産出していることが知られています。その中でむかわ町穂別からは10個体（1個体が国立科学博物館所蔵、当特別展で展示）が産出しています。穂別博物館には穂別産9個体と日高町産1個体、平取町産1個体の計11個体が収蔵・展示されていて、日本産のモササウルス収蔵数としては日本一を誇ります。これら資料の質も高く、北海道三笠市産で2008年に新種とされたタニファサウルス・ミカサエンシス（三笠市立博物館所蔵、当特別展でレプリカ展示）以外の、日本産モササウルスの新種（モササウルス・ホベツエンシス *Mosasaurus hobetsuensis*、モササウルス・プリズマティクス *Mosasaurus prismaticus*、フォスフォロサウルス・ポンペテレガンス *Phosphorosaurus ponpetelegans*）が当館に収蔵・展示されています。特別展では、このほかに日本を代表するモササウルス類として、研究中的の和歌山県鳥屋城山産モササウルスのレプリカ（複製）（和歌山県立自然博物館所蔵）（北海道初公開）も展示しています。



後足のあるウミヘビ；ハーシオピス（レプリカ）



ラッセロサウルス頭骨（レプリカ）

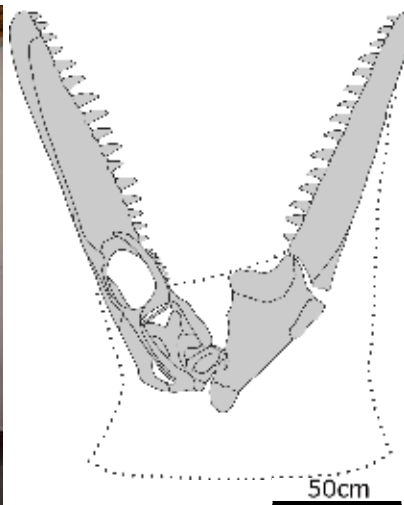
国外産の資料としては、白亜紀セノマニアン期のイスラエル産で後足のあるウミヘビ：パキラキス (*Pachyrhachis problematicus*) 2 個体とハーシオピス (*Haasiophis terrasanctus*) が展示されています。これらはモササウルス類とヘビ類との系統（類縁）関係を明らかにする上で鍵となる分類群であると考えられ、世界的に注目されている種類です。アメリカ産モササウルス類ラッセロサウルス (*Russellosaurus coheni*) は主要なモササウルス 2 グループ（プリオプラテカープス亜科とティロサウルス亜科）の祖先として知られる種類で、モササウルスの進化を明らかにした重要な標本です。これらレプリカ（複製）は、アメリカ サザンメソジスト大学と当館とのレプリカ交換で入手した資料です。これらは今回の特別展で初公開しました。

学芸員 櫻井和彦・西村智弘

世界最大級のモササウルス頭部パネル制作



「世界最大級のモササウルス」原寸大パネル



パネルの設計図。頭骨は学術論文を基に制作。

Grigoriev, D.V., 2014. *Proceedings of the Zoological Institute RAS*. Vol. 318, No. 2, pp. 148–167.

モササウルス類で最大級のモササウルス・ホフマニイ

Mosasaurus hoffmanni の頭部を原寸大で再現したパネルを作りました。基にした標本はロシアのペンザから発見された全長約 1.7メートルの下顎骨ほかで、推定全長は 17m に達すると考えられています。小西卓哉助教（アメリカ シンシナティ大学）の監修のもとで制作しました。

地域おこし協力隊 太田晶



むかわ町穂別博物館

開館時間 9:30~17:00 (最終入館 16:30)

観覧料 個人/小~高校生: 100円

大人 300円

団体/小~高校生: 50円

大人 200円

※団体は 10人以上 ※小学生未満は無料

2016年9月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

2016年10月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

休館日 町民無料観覧日